

令和3年度第1回地域包括ケアシステム検討委員会（報告）

日時 令和3年8月5日（木）

13:30～15:30

場所 高梁市役所 3階大会議室1・2・3

1 開 会（進行 池田主任介護支援専門員）

2 あいさつ

【加藤委員長】

この委員会では地域づくり、福祉の視点での支援について協議してきた。第8期の介護保険事業計画が策定されたが、地域の状況も変わってきている。高梁市の人口も3万人を切っており、高齢者数は変わらないが若者が減少している。地域の課題を把握して、地域だけ、行政だけでなく、総動員で関わっていかねばならない。

【石村所長】

人口減少、特に生産年齢人口の減少が著しく、人材不足が課題。人材を確保する必要があり、ボランティアの掘り起こしをしていきたい。地域包括支援センターの職員間で協議しているが迷走している。皆さんの忌憚のない意見をいただきたい。

3 自己紹介

4 協議事項

(1) 地域ケア会議について（大福主幹）

資料3～5ページにて説明

(2) 高梁市の取り組みについて（西川社会福祉士）

資料6～9ページにて説明（元気なからだづくり隊活動支援、生活体制整備事業、介護サービス事業者適正化事業）

(3) 岡山県下の状況について

岡山県社会福祉協議会 濱田氏から提供された資料を配布（総社市の生活支援にこにこサポート事業）

(4) 個人ワーク・グループワーク

「ボランティアによる高齢者の生活支援について」

※グループワークの説明（森本）

資料10～13ページにて高梁市における高齢者の状況、専門職の状況を説明したのち、個人ワーク・グループワークの進め方について説明

案①を1グループ、案②を2グループ、案③を3グループにそれぞれ個人ワーク・グループワークをしてもらう。

※お助け隊の説明（社協 横林氏）

町内会支援制度が廃止されたことに伴い、それを補完する形で開始した。福祉サービスというより、町内の互助活動としての意味合いが強い。市内全地区で設立しており、各地区で事務局を作っている。社協は側面的支援を行っている。

※松原地域のお助け隊の活動について説明（東委員）

平成30年の立ち上げ時に会員を募集しても集まらなかったため、福祉委員に会員になってもらった。さらに福祉委員から協力者を募ってもらい、現在会員は44名。

軽微な作業を対象としているが、出来ないような作業の依頼もあり、実際にお助け隊で出来ることは年間2～3件になってしまう。ごみ出しなどは対象としているが、近所の人に頼みにくく依頼は少ない。

福祉委員を5年計画で育てた。やらなければならないことを与えると動いてくれる。福祉委員に行動力がついてきた。

※個人ワーク
※グループワーク
※発表

} 別紙

※まとめ（加藤委員長）

今年度この事業は動かしていく段階。地域の置いてきぼりになっているニーズの掘り起こしが必要。個別課題を拾っていくことが重要。

先日、たかはし社会福祉士会で災害時の支え合いの研修を行った。そこで真備町の取り組みを聞いた。高齢者が集うコミュニティカフェに防災機能、親子ふれあいの場、子供の勉強の場の機能を持たせるというもの。重層的多機能を持つ場に高齢者の役割がある仕組み。それが地域に求められる活動だと思う。

5 その他

6 閉 会（横林職務代理）

ボランティアによる高齢者の生活支援というテーマは昨年度から協議しているが出口が見えない。マンパワー不足は誰しもが感じているが、課題解消のためにこの事業もスタートしなければならない。